

THERE WAS A SHORTAGE OF EVERYTHING, INCLUDING FRUITS, WILD VEGETABLES, FISH, AND ANIMALS

AND THIS YEAR, THERE WAS LESS FOOD IN THE FOREST THAN EVER BEFORE.

I HAVE LIVED IN THIS VAST FOREST FOR MANY YEARS

IN OTHER WORDS, I WAS EXTREMELY HUNGRY

NO, NO! HELP ME!!

I'm sorry, I'm really sorry... I can't stand it anymore...

—SO, THE MOMENT I FOUND TWO TRAVELERS LOST IN THE FOREST, I IMPULSIVELY CAUGHT THEM



**AHH,
MEAT,
FRESH
MEAT AT
LONG
LAST...!!**



THE TASTE OF
BEASTMAN
MEAT I
EXPERIENCED
FOR THE
FIRST TIME

A TICKLING
SENSA-
TION IN
THE
THROAT

THESE
MUFFLED
SCREAMS...

FOR ME
RIGHT
NOW, IT
ALL
FEELS
GOOD...♡

フクフク...



ズズズ...

Umm...



—No way...

PLEASE!
WE DON'T
WANT TO
DIE!



Urrp...

ALTHOUGH I FELT
GUILTY TOWARDS
THEM, I WAS
FILLED WITH A
SENSE OF
SATISFACTION
THAT OUTWEIGHED
THAT GUILT

AH...
MY EMPTY
STOMACH
IS MOVING
WITH JOY



THANK YOU,
I WILL
NEVER
WASTE THE
BLOOD AND
MEAT OF
YOU TWO...



私は長年
この広大な
森で暮らして
きたけど…

今年は
かつてない
ほど実りが
少なかつた

果実も山菜も
魚も動物も…
とにかく
食べられる
モノが不足
していた

やだやだッ！
助けて！
お兄ちゃん！

つまり
私は凄まじく
飢えていたのだ

—だからふたりの
旅人が森に迷い込んだ時、
私は衝動的に彼らを
口に運んでいた

ごめんね…
ごめん…
もう耐えられ
ないの…！



ああ…
久しぶりの
新鮮なお肉…!



ふざけんな！
今すぐ出—



イクン...

初めて味わう
同じ獣人族の
肉の味

モゾモゾと
喉の中で
暴れ回る感触

くぐもった
悲鳴

今の私には
そのすべてが快楽
として感じられた

ズググ...



Umm...



うう...

お願い！
ここから
出して...！



——ああ……
空っぽの胃が
美味しいごちそうに
歓喜している

……彼らへの
罪悪感は何論
あるけれど……
それを上回る
満足感で私の心は
いっぱいだった

あはは……ッ
げえっぷ……♡



大丈夫、
キミたちの血肉は
決して無駄には
しないからね……



…数時間後、
胃袋の中は
静かになった

ふたりはすっかり
ドロドロの
スープになって腸へ
送られたのだろう

ごちそう
さまでした

…獣人族が
こんなに
美味しいモノ
だったなんて…

次にまた
チャンスが
あれば…ふふ…

キュルルル…
チャッ…

ゴクン♡

…それからというもの
その一帯では
消息不明になる
旅人の数が少しづつ
増えるようになった

痕跡なく「丸ごと」
消えてしまったため、
原因は未だに
解明されていない…